



人材バンクの活用が課題。既存の制度(例:ものづくりマイスター)をより効果的に活用する必要。

### (3)農業・自然体験の価値

農業は作物を作るだけでなく、企業的な側面もあることを伝える。

食農教育を通じて、長野県の魅力を再認識させる。

泥んこになって収穫するなど、五感を使った体験が記憶に残る。

### (4)将来の職業観と生き方の教育

「将来の夢＝職業」ではなく、「どう生きたいか」を考える体験を提供。

起業家や移住者との交流を通じて、多様な生き方を知る。

職業観の転換が必要な時代背景。

### (5)海外・英語・国際交流

海外体験は視野を広げる効果大きい。英語力向上よりも「興味を持つ」ことが重要。

国内でも外国人との交流の場を設ける工夫が可能。

台湾との交流など、国際的なつながりを小中学校にも広げたい。

### (6)公平性と継続性のあるプログラム設計

できるだけ多くの子供が参加できるように配慮。

年間を通じた複数回のイベント開催が効果的。

発達段階に応じたプログラム設計が必要。

### (7)資金と持続可能性

海外研修は費用面での課題があるため、国内での代替案も検討。

寄付や支援を通じて、長野県に貢献する人材育成を目指す。

## 3 ディスカッションの記録

地域の特色ある学習 学習指導要領の枠をこえた学び 地域の特色を生かしながらどう学ぶか、体験の場を提供できるか

海外へ行くと意識が変わる 貴重な体験ができる なるべくいろいろなことを思いきりやらせる

海外の人と接することで視野が広がる、考え方が変わる

大人として子供たちにどんな体験をしてほしいか、どんな人と出会ってほしいかが重要

高校へ行ってから地元のことを学ぶのでは遅い

小中学校の体験が重要 長野県に帰ってきたいと思えるのは子供のころの体験が重要

地元の企業と交流を深めるのはそれなりに結果が出ている

地域の人から学ぶ 産業や製品だけでなく「人」特に中学校の職場体験では重要

地域で活躍するちょっとかっこいい大人の話を聞くと、ああいう大人になりたいと思える

長野県で働いている生き生きしている大人と接する

そういう協力ができる「人材バンク」ができないか 人材バンクはあっても学校での活用が難しい

ものづくりマイスターという人材バンクはある 思いを語っていただいた上で体験する

小学校では総合的な学習の時間を通じて人と出会っているが、中学校の職場体験では人と出会っていない、体験するだけになっているのでは

体験だけでなく人との交流が大切

できるだけ多くの子供たちが参加できるようなプログラムが理想

場を示してやらないと、自分たちからやりたいという子供は少ない

職場体験 見て終わりではなく、大人と一緒に何かやる メンバー全員で取り組むことを入れてはどうか  
こども食堂でも大人と子供と一緒にコメを作る体験をしているところもある

自分の将来はいつ決める？

小学5、6年や中学1年で自分の将来を決められない

将来、長野県を出ても帰って来いと強制はできない

例えば農業 農業のイメージについて大人がまだ古い 作物を作るだけではない

新しい農業をやっている場面を見せる、体験させる 農業をやる人は絶対必要

いろいろな考えの人がいるから、まずはいろいろやってみればいい

農業ではなく「学校のカリキュラム化」している

食農教育を経験した人達が10年後に「農業で働きたい」と言ってくれている。息の長い活動が重要

食農教育を通じて「長野県っていいよね」と感じてくれている

農家というより今は法人化が進んでおり、企業的な農業を希望する若者も増えている

いろいろな農業のやり方をみてもらいたい

人を育てるのは難しいが、長いスパンで見ることも大事 50年後

長野県のこれからを考える上で 農業は重要

子供に自然体験を

農業に携わる人の人材バンクの活用

泥んこになったが楽しかった、収穫の感動、そういう経験が大事

将来の職業を夢にしているのがいけない？学校の問い方が悪いか

どう生きたいか、それを考えさせるような体験を

同じ体験でも子供の受け止めはそれぞれ違う

将来なりたい職業を目指すのではなく この仕事をする上で自分はどう生きていくか

今はどんどん職を変える時代、自分に合う仕事を探し続けるのは悪いことではない

仕事に対する考え方の転換をする

起業家の方と接する

長野県に移住した人の活用

参加者の公平性

できるだけ多くの子供たちに参加してもらえるプログラムを

15人集めても長野県で活躍するのは1人か2人、でも長野県で育てるということが大事

大きな人間になって戻ってくる、地元に住まなくても長野県のことを思っていてくれる

寄付でやっていく事業なので、やはり長野県で活躍してくれることを子供には期待したい

子供に投資をしていかないと育たない

長野県で活躍することを前提にせず

経験の機会を与えてくれたということは子供たちに残るはず

事業資金について

海外研修は費用がかかり、参加が一部の子供たちに限られるのでは

沖縄、国内でも可能なのでは

コミュニケーション能力 英語を使って そのためにも海外が理想

外国人が多くなっているのに、日本国内でも

長野県は英語でコミュニケーションできる県、となれば長野県に進出する企業が増えるかも

学校の英語教育の内容についても考える必要がある

英語を嫌いにさせるような教育になっていないか

1週間海外に行ったからしゃべれるようになるわけではないが、興味を持って自分で学ぶようになる

海外へ行くのは英語力のためではなく、視野を広げるという効果大きい  
インバウンドを地域資源と考える 海外からの観光客に英語でガイドする

台湾との交流

高校は受け入れるが、小中学校の受け入れが難しい

台湾の小中学生の英語力は高い、そうしたことに触れるだけでも違う

教える側の英語力の違いが大きい コミュニケーションツールとして使える英語を

これからは AI が通訳してくれる

価値ある体験をさせる

大人と一緒にそれを体験する

海外は行けたら行く 国内で工夫もできる

年間通じて数回イベントを開催し、その都度参加者を募るというやり方もあるか

一回だけでなく、複数回参加することで効果がある

発達段階に応じたプログラムを用意する必要も